

# 福津ふしぎ発見



## 娘を助けた観音様

今月から「福津ふしぎ発見」を再開します。このコーナーでは、市内に古くからあるものや地域に伝わる行事などを紹介していきます。今月は、手光区ちようこくの長谷寺にある、身代わり観音と呼ばれる十一面観世音菩薩の不思議な言い伝えです。



▲33年に一度の本開扉ほんかいちよう（次は2041年）とその間の中開扉なかかいちよう（次は2023年）のときにだけ、観音様を見ることができます

五郎作夫婦は子どもを授かるよう長谷寺の観音様に祈り、ようやく娘が生まれました。五郎作はその後もお祈りを続けましたが、急な病で死んでしまいました。娘が11歳になった頃、一羽の鷹たかが家の中に飛び込んできました。娘は物音がする棚の方へ近づき、持っていた棒を棚の後ろへ突っ込みました。驚いた鷹は娘に飛びかかり、娘はとっさに棒で鷹を殴って死なせてしまいます。そこに二人の侍がやって来ました。実は、殿様の鷹だったのです。娘は侍に切られてしまいました。血に染まり今にも死にそうな娘。母親は「観音様から授かった娘です。助けてください」と必死に祈りました。すると、娘は意識が戻り、元気になっていきました。お礼参りに行った親子は、観音様の肩に大きな傷を見つけました。観音様が身代わりになってくれたと知った親子は、涙を流して手を合わせました。それから観音様は身代わり観音と呼ばれるようになりました。

